園長と語ろう

―新米園長の一年（後編）―

園長　家田　美里

私が園長になり一年半が過ぎたいふ慣れてきました。「園長先生！」と呼ばれると、やっと自分の事だとわかり返事が出来るようにもなってきました。前編では入園説明会までのドタバタをお伝えし（今年度入園の方はすみません。前編がありました）後編はその続きになります。

おじいちゃん・おばあちゃんお招き会です。この時くらいしか園に来られない祖父母の方もおられ、楽しく話しができれば…と思っていたところに担任が体調不良で欠席というおまけがついてしまい、何を話したか覚えていない程緊張してしどろもどろでした。にも拘らず最後には拍手をいただきホッとしました。

うんどうかいでは前日に光信先生に「何て保護者の方に話しをしたらいいかな？」と相談をしました。「見てもらった姿が全て、それを伝えたらいい」と言われ「それならできる」と気持ちが楽になり、私は全学年のうんどうかいを目一杯楽しみました。この頃から年長児が、クラスみんなで話し合いをする事が増え、昨年のうんどうかいでも面白い（変な）種目がありました。城戸先生とその変な種目のルールを「あーでもないこうでもない」と練り上げ決まった「いす取りゲーム」ＢＧＭは自分達で歌うという斬新なものでした。「えーっ！」と思いましたが、それ以上に見てみたいと思い楽しみにしていました。本番はとても真面目に歌い、椅子の数もめちゃくちゃな上に、その場で話し合いが始まりルールはどんどんアップデートされていきました。むらさきならではのこんな楽しいうんどうかい、どの学年もメダルを渡す時、子ども達の笑顔や少し照れた顔を特等席で見る事が出来ました。

園児大会が中止になった頃、とうとう私自身が大爆発してしまいました。急に地面が凄いスピードで回りだしそのままダウンです。目をつぶってもぐるぐる回っていました。ここからが長くたいへんな日々でした。病院へ行っても原因はわからず薬を飲んでも良くもならず、いつまたしんどくなるのか…と毎日ビクビクしていました。頭を冷やす事が予防となり対処方法だった為、ほっかむりをした私を見た保護者の方も多いのでは？先生達にも迷惑をかけっぱなしで、サンタが遊びに来る５分前に目が回り、急遽小田先生がトナカイのジョニーになった事もありました。私にとってはオーバーワーク？と考えた事もありましたが、園に行って子ども達が遊んでいる声を聞いていると楽しく、パワーももらっているのでそれは大丈夫だなと思いました。私のあまり動かしていなかった脳みそが、急に働かなければならなくなり熱がこもってぐるぐるに繋がっていたのだろうと思い、騙しだまし毎日を過ごしていました。

冬休みに入り十分に充電を行い三学期を迎えました。短い三学期だというのにインフルエンザで学級閉鎖。新米パーティーも延期になり慌てて注文していた材料をキャンセルしました。この様に毎日、大なり小なりハプニングがあります。今までは全てを把握する事はなかったのですが、今は些細な事も聞き把握するようにしています。長い間むらさきに居ますが、全ての保育に携わる事がなかったので、生活発表会を見て驚きました。子ども達の一年の成長がよくわかりました。クラスの特長がよく出ていて、このクラスは沢山話し合いをしてきたな、このクラスは体を動かして遊ぶのが好きだったなと担任はここまで引き出す事が出来るのだと思い、子ども達がこんなに逞しくなるのだと驚きました。

私の新米園長の一年はあっと言う間でした。初めての子ども達を卒園式で無事に送り出し、休む間もなく二年目の令和七年度に突入です。卒園式にあるお母さんから「美里先生の園長１年目に在園できてよかったです」という手紙をいただきました。そんな風に思ってくれたお母さんが居たと、とても嬉しかったです。これからまだまだ子ども達は成長します。楽しみにしていてください。そして二年目、三年目…と成長していく私も見守ってください。